

重点項目についての環境配慮概要											
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目									
“ストップ温暖化しずおか行動計画”の推進(Gloval Warming)											
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策)/④部品・部材の耐用年数 ①窓:SC=0.44、U=4.5 外壁:U=0.48 ②1階エントランスにトップライトを設け明るい共用空間とした ③全居室にカーテン又はブラインドを設ける ④仕上塗材補修間隔25年、壁:ビニールクロス10年、電気設備配管・配線20年、空調ダクト20年、受変 電設備、発電機15年	Q-1	2	2.1	2.1.3	①	外皮性能				
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備				
				3.2	3.2.2	③	昼光制御				
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	外壁仕上材の補修必要間隔				
				2.2.2		④	主要内装仕上材の更新必要間隔				
				2.2.3		④	配管・配線材の更新必要間隔				
				2.2.4		④	主要設備機器の更新必要間隔				
		Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出				
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上				
		■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地北側に緑の遊歩道確保、敷地周囲を緑化 ⑥建物をコンパクトにまとめ、空気を広くとり風通しを確保 ■エネルギー対策 (⑦建物の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦3265.6/340=78% よって-22% ⑧エントランスにトップライトを設ける、ナイトバーჯ ⑨自然エネルギーの変換利用はしていない、ERR値 30% ⑩運用管理体制について特に提案は行っていない	LR-1	1			⑦	建物の熱負荷抑制			
			2	2.1		⑧	自然エネルギー直接利用				
				2.2		⑧	自然エネルギー変換利用				
			3			⑨	設備システムの高効率化				
			4	4.1		⑩	モニタリング				
				4.2		⑩	運用管理体制				
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫低環境負荷材) ⑪厨房・洗面水栓・大便器共節水機器採用、17.26/(37.54+17.26)=31.5% 根拠数値別紙、雑排水利用の仕組みなし ⑫浜松産木材50%以上使用、接着剤、シーリング材、塗料等は有害物質を含まない材料を使用する。またフロン・ハロンの回避も行っている。	LR-2	1	1.1		⑪	節水				
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム				
					1.2.2	⑪	雑排水利用システム				
			2	2.1	2.1.1	⑫	躯体材料の再利用効率				
				2.1.2		⑫	非構造材料の再利用効率				
				2.2		⑫	持続可能な森林から産出された木材				
				2.3		⑫	有害物質を含まない材料				
				2.4		⑫	既存建築躯体などの再利用				
				2.5		⑫	部材の再利用可能性				
			2.6	2.6.1		⑫	消火剤				
				2.6.2		⑫	断熱材				
				2.6.3		⑫	冷媒				
	■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬敷地内緑化、建物全体を外断熱化(断熱材50～60mm)	LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善				
“災害に強いしずおか”の形成(Disaster)											
	■サービス性能対策 (⑭耐震・免震/⑮信頼性) ⑭地域係数Z=1.2、用途係数I=1.25。家具等個別に転倒防止対策等を施す ⑮空調・換気:中央式空調換気設備を持たない。 給排水・衛生:災害用マンホールトイレの設置。 雨水貯留槽・中水槽を設け、中水(雨水)を日常及び災害時の雑用水への利用する。 電気:非常用発電機設備を設ける。機械・配管支持:地上に設置する屋外受水槽1.0G、屋上に設置する消火用補助水槽1.5Gとする。(耐震クラスA) 通信・情報:光ケーブル・メタルケーブル用空配管を設ける。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑭	耐震性				
					2.1.2	⑭	免震・制振性能				
				2.4	2.4.1	⑮	空調・換気設備				
				2.4.2		⑮	給排水・衛生設備				
				2.4.3		⑮	電気設備				
				2.4.4		⑮	機械・配管支持方法				
				2.4.5		⑮	通信・情報設備				
“しずおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)											
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑯敷地内、館内に段差を設けず、スムーズに移動できる計画 ⑰2～4階の入居者共用廊下に談話コーナーを設け、訪問者とともにくつろげるスペースを計画 ⑱1階共用部階高を4.0mとし、共用部の天井高さを確保。壁長さ比率:全体=0.18、居室=0.64 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲浜松産材使用、緑地・遊歩道の確保、見通しの良い計画とした	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰	ユニバーサルデザイン計画				
			3	3.1	3.1.1	⑱	階高のゆとり				
					3.1.2	⑱	空間の形状・自由さ				
		Q-3	3	3.1		⑲	地域性への配慮、快適性の向上				
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)											
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地北側に緑の遊歩道確保、敷地周囲を緑化 ⑥緑地を確保し良好な景観形成、ランドマークとなるようなレンガの外観 ⑦建物をコンパクトにまとめ、空気を広くとり風通しを確保 ■敷地外環境対策 (⑬温熱環境悪化の改善) ⑬敷地内緑化、建物全体を外断熱化(断熱材50～60mm)	Q-3	1			⑤	生物環境保全と創出				
			2			⑳	まちなみ景観への配慮				
			3	3.2		㉑	敷地内温熱環境の向上				
		LR-3	5			⑬	温熱環境悪化の改善				